『はじめての講義　リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』

シラバス案（講義回数：15回用）

|  |  |
| --- | --- |
| 授業の概要 | 本講義では，医療現場の治療に用いられている薬物を紹介し，その作用メカニズムや副作用の理解を促す。そのためには，薬物の生体内での動態や作用点での反応を理解することが必要不可欠である。また，どのような疾患でどのような薬物が使用されているか，使用時の注意点を説明し，医療現場での薬物治療に関する理解を深めてもらう。 |
| 授業の到達目標 | ・薬物の生体内での動態を説明できる。  ・薬物の作用点での反応を説明できる。  ・疾患別の薬物の作用メカニズム，副作用を説明できる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 講義回数 | テーマ | 主な学習内容 |
| 第1回 | 薬理学・臨床薬理学を学ぶ前に  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第１章） | ・リハビリテーションにおける薬理学・臨床薬理学の重要性  ・薬理学・臨床薬理学とは  ・薬と薬物療法 |
| 第２回 | 薬理学の基礎  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第２章） | ・薬の生体内運命と薬効 |
| 第３回 | 薬理学の基礎  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第２章） | ・薬理作用と作用機序  ・薬のリスクと薬害  ・薬に関する法律・規則 |
| 第４回 | 神経に作用する薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第３章） | ・神経のはたらき  ・自律神経系に作用する薬 |
| 第５回 | 神経に作用する薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第３章） | ・筋弛緩薬・抗痙縮薬  ・抗てんかん薬，抗パーキンソン病薬，抗うつ薬，統合失調症治療薬，認知症治療薬，睡眠薬・抗不安薬 |
| 第６回 | 循環器（心臓・血管）に作用する薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第５章） | ・心臓と血管  ・心不全治療薬，降圧薬 |
| 第７回 | 脳血管障害治療薬  循環器（心臓・血管）に作用する薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第４章，第５章） | ・抗血栓薬（血栓溶解薬，抗血小板薬，抗凝固薬） |
| 第８回 | 循環器（心臓・血管）に作用する薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第５章） | ・虚血性心疾患治療薬，不整脈治療薬，末梢動脈疾患治療薬，静脈血栓症治療薬， |
| 第９回 | 脳血管障害治療薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第４章） | ・脳血管障害の分類  ・脳梗塞の原因  ・脳梗塞急性期治療薬，脳梗塞慢性期治療薬，脳出血治療薬 |
| 第10回 | 痛みと炎症に作用する薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第６章） | ・痛みと炎症とは  ・解熱鎮痛薬，ステロイド，麻酔薬，麻薬性鎮痛薬，神経障害性疼痛緩和薬，関節リウマチ治療薬 |
| 第11回 | 抗アレルギー薬  呼吸器に作用する薬  その他の治療薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第７章，第10章，第13章） | ・免疫系とは，アレルギーとは  ・抗アレルギー薬  ・呼吸器のはたらき  ・気管支喘息治療薬，慢性閉塞性肺疾患（COPD）治療薬，肺炎治療薬  ・皮膚外用剤，点眼薬，点鼻薬 |
| 第12回 | 感染症治療薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第８章） | ・感染症とは  ・抗菌薬，抗ウイルス薬，抗真菌薬  ・感染症の予防と消毒薬 |
| 第13回 | 抗がん薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第９章） | ・悪性腫瘍とは  ・化学療法薬，分子標的薬，ホルモン療法薬，がんによる痛みの治療薬 |
| 第14回 | 代謝に作用する薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第11章） | ・代謝とホルモン  ・糖尿病治療薬，骨粗鬆症治療薬，脂質異常症治療薬，痛風治療薬 |
| 第15回 | 消化器に作用する薬  （☞『リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学』第12章） | ・消化器の働き  ・消化性潰瘍・慢性胃炎治療薬，制吐薬，便秘・下痢の治療薬，炎症性腸疾患治療薬 |